

常なる磐

つねなる いわ

令和2年6月19日(金)号

◇ 奉仕の心

6月に入り、学校の景色が様変わりした。校庭である。日を追うごとに緑色を増していく。「さすがに緑豊かな山あいの中にある学校だ」などと、のんきなことは言ってはられない。それほど変化は急速なのだ。さらに今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として学校が休校になったほか、学校開放が全面禁止となり、校庭を使用しない時期が長かったことも雑草の急速な生長を後押しした。週に1回、清掃の時間を利用して、全校生徒で校庭の草取りを行うのだが、とてもとても追いつかない。

そんな折、「6月末の航空写真の撮影に間に合うように、地域(寿会と社教委員)で校庭の草取りを協力しましょうか」と、中根社教委員長さんから提案があった。タイミングの良さに感服。まさに、救いの神の声である。

続いて、「草取りをやっていただくだけでは、地域に申し訳ない。児童も参加させたいが密も避けたい。ならば、4・5・6年の児童で部活動の時間を使って草取りを行わせたい」と部活動担当者から申し入れがあった。この考えも嬉しい。

16日(火)、部活動開始とともに、担当者の指示を受けて児童による草取りが始まった。トラック沿いに間隔を空けて並び、中腰になっての草取り。時間にして約30分。黙々と草取り。誰一人、無駄ごとをしない。

児童の献身的な姿に驚き、嬉しさがこみ上げる。こんなに黙々と草取りを行う子供たちを目の当たりにしたのは、初めてと言ってもよい。



4年生は、部活動が始まって3日目。技能は、まだまだ未熟かもしれないが、奉仕の心、部活動に臨む心は、もうすっかり一人前であることを姿で証明してみせた。

緑色の範囲が小さくなったのは僅かではあるが、本校の子供たちの奉仕の心は計り知れなく広い。